

平成23年度 南波多小学校教育計画

大野岳を心のふるさとに
—みんなでつくる南波多小—
南波多小に通ってよかった・学んでよかったと思われる学校をめざして

学校教育目標

共に学び

(創造=みがきあい)

心豊かで

(友愛=かたりあい)

たくましい 児童の育成

(躍動=きたえあい)

こ
ん
な
子
ど
も
に

- 人の話をしっかり聞き取り、自分の考えをきちんと話せる子ども
- 自ら学び自ら考える子ども
- 読書の習慣が身に付いている子ども

- 人の良さやがんばりを認めることができる子ども
- 友達と仲良く活動し、思いやりのある子ども
(おもいやり世界一)
- 規則や約束が守れる子ども

- 元気にあいさつや返事ができる子ども (あいさつ・返事日本一)
- めあてや目標をもって最後までがんばる子ども
- 健康で安全な生活が実践できる子ども

☆南小っ子合言葉(重点行動目標)

- 自分の考えをきちんと話します。
- 人の考えをしっかりと聞き、自分の考えを深めます。
- 人の良さやがんばりを認めます。
- 元気にあいさつや返事をします。

(教師の支援)

こ
ん
な
教
師

1. 「やります」「できます」「がんばります」をモットーに、いろいろなことに進んでチャレンジする教師
2. 「南小プロ集団」を目指し、児童・地域・保護者に信頼される教師
3. チームワークを大切にし、互いに切磋琢磨し高めあう教師
4. 子どもの良さやがんばりを認め、育てる教師

(教師の支援)

方針	教育の重点	目 標	具体的方策
魅力ある学校づくり	(1)小中連携教育の充実	① 中1ギャップの軽減と学力の充実 ② コミュニケーション能力向上と学力向上 ③ 小中合同行事・交流活動・体験活動の充実 ④ 小中連携教育の良さの発信	○計画的な小中相互の乗り入れ授業を実施する。 ○スピーチトークタイムを継続して実践する。 ○培った能力を学力向上(思考力・判断力・表現力)に生かすことをテーマとした校内研究を充実する。 ○合同運動会、ふれあいコンサート、ボランティア活動、合同フリー参観(6月)を実施する。 ○フリー参観(6月と10月)、公開授業研究会を実施することで保護者・地域・市内他校に伝える。
	(2)挨拶・返事日本一運動の推進	① 挨拶・返事が進んでできる子どもの育成	○育友会、児童会、各地区登校班による挨拶運動を実施する。 ○校長と職員で毎朝の挨拶指導を行う。
	(3)開かれた学校づくりの推進	① 地域の教育力(人・もの・こと)を生かした、多様な教育活動の展開 ②保護者・地域への情報発信	○町の組織に組み入れた地域支援のネットワークを活用し、学習支援、安全指導、環境整備等を行う。 ○学校行事・教科等・生活科・総合的な学習の時間に地域の教育力を生かした展開を意図的に仕組む。 ○フリー参観、授業参観、各種便りによって、学校や子どもの様子を伝える。
児童指導の充実	(4)学力の向上	① 基礎学力の向上	○少人数TT担当教員を3年生以上の算数指導に当てる。校長は2年生を担当。 ○ドリル学習(H・S・J)を級外職員も加わったTT体制で行う。

		② 読書活動の充実	○漢字検定に積極的に参加する。 ○目標冊数の設定、量から質への転換を図る。家読も推奨する。
	(5)心の教育と人権教育の推進	① 道徳・命の教育の充実 ② 人権感覚の育成	○ふれあい道徳授業参観（2月）を実施する。 ○毎月の「心の広場」（人権教室）と「月のこころ」の継続実施により、指導・把握の手段とする。 ○「命の教育」指導資料や「伊万里っ子しぐさ」を活用し指導する。
	(6)生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実	① 人の良さやがんばりを認めることができる子どもの育成 ② 「しょうがい」の特性に合わせた計画的で適切な指導	○「出番・役割・承認」のサイクルによって、開発的生徒指導を実践し、自尊感情を育て、支持的風土を醸成する。 ○個別の支援・指導計画を作成し、情報を共有する。
	(7)安全教育の充実	① 自分の命は自分で守る子どもの育成	○交通安全教室・防犯教室・避難訓練を計画的に実施する。
	(8)健康な体の育成	① 基本的生活習慣の育成 ② 食育指導の充実 ③ 性教育の充実	○育友会との連携によって、減テレビ・減ゲーム・早寝運動を推進し、同時に家読、親子の会話や睡眠時間の確保に努める。 ○食育授業を実践し、栄養教諭との連携を図る。 ○性教育月間の設定し、授業実践を行う。
教職員の資質向上	(9)使命感の確立と実践的指導力の向上	① チャレンジ精神を持つ教師 ② 児童・保護者・地域に信頼される教師 ③ チームワークと自己研鑽を大切にする教師	○教育への信念を持ち、既成概念にとらわれずに工夫とアイデアを教育に生かす。 ○課題解決に向け、全職員一致で取り組む。 ○家庭に対して、学校や子どもに関する情報をできるだけ多く発信する。 ○校内授業研究会を実施する。（全員授業の実施） ○教育センター講座や研究発表会等への参加の機会を多く持つ。